

2014年6月27日(金)

研修「Data-driven で考える」

講師 佐藤翔 (min2fly@slis.doshisha.ac.jp)

自己紹介

- ・同志社大学社会学部教育文化学科(図書館司書課程担当)
- ・専門は学術情報流通、利用者行動
- ・図書館業務の経験は皆無

1. 事実に基づく意思決定と行動の重要性

- ・疑うべきは固定観念
- ・Evidence-based: 証拠に基づく〇〇
- ・Evidence がないときは…作り出す!

2. 必要なデータを考える

- ・自分は何がしたいのかを見極める
 - ・それをどこまで切り刻めるか?
- ・着眼大局、着手小局
 - ・できることをできる範囲で
- ・「急所」を見極める
 - ・今、必要なのは?
 - ・決定的なポイントを突く

3. データの「取り方」: 収集手法のアレコレ

- ・質問紙調査系: 基本の基本
- ・インタビュー、フォーカス・グループ系: 質的データを得る
- ・行動観察: 「実態」を知る
- ・実験系: 理想的環境で確かめる
- ・ログを使う: 副産物の利用

4. データの「読み方」

- ・「独立変数」と「従属変数」を考える
- ・外的要因を考える
- ・データの分布を考える
- ・偶然の余地を考える
- ・「常識的に考え」ながら「常識を疑う」
 - ・疑って、疑って、それでも最後に残ったことは事実だ

5. 事実から考える : Discussion

- ・事実の先を決めるのは自分
- ・足りなければまたデータに戻る

6. ワークショップ リテラシー講習を計画する

- ・学生向けに図書館講習会の企画をする
 - ・現在の学生の実態を踏まえたものにしてほしいとの要望あり
 - ・参考に…学生向けに文献 DB や図書館の利用について尋ねた質問紙調査のデータ
- ・データから学生の傾向を読み取る
 - ・どんなものを使っている？
 - ・何はできていて何が足りない？
 - ←・足りない部分を補うとすればどんな企画が必要？
- ・このデータだけでは読めない／追加で調べるべきこととは？
 - ・立案した企画の有効性を検証するにはどんな追加のデータがいる？
 - ・そのデータをどうやって得る？
- ・開始時には生データ＋基本的な図表を配布
 - ・「もっとこういうものは？」と講師に聞いていただければその場で追加配布
 - ・ただし生データから作れるものに限定